



ポニーキャンプ受入や乗馬体験の提供を行なう「牧場」。地域の子供達にポニーや動物との触れ合いの場を提供し、障害児の為のポニー乗馬教室や、軽乗(アクロバットライディング)の練習も取り入れる「動物広場」など、ハーモニセンターが運営する施設はバラエティに富んでいます。

誰もが馬と自然に触れ合う文化[Riding For All]を提供してまいります。



- 蓼科ポニー牧場
〒391-0213 長野県茅野市豊平字東嶽4734
TEL:0266-76-2813
- 小貝川ポニー牧場/小貝川生き生きクラブ
〒300-1511 茨城県取手市桐木49
TEL:0297-71-6520
- 碑文谷公園こども動物広場
〒152-0003 東京都目黒区碑文谷6-9-31 碑文谷公園内
TEL:03-3714-1548
- 水元スポーツセンター公園こども動物広場(ポニースクールかつしか)
〒125-0032 東京都葛飾区水元1-19 水元スポーツセンター公園内
TEL:03-3627-0745
- 上千葉砂原公園ふれあい動物広場
〒124-0002 東京都葛飾区西亀有1-27-1 上千葉砂原公園内
TEL:03-3690-4460
- 板橋こども動物園
〒173-0004 東京都板橋区板橋3-50-1 東板橋公園内
TEL:03-3963-8003
- こども動物園高島平分園
〒175-0082 東京都板橋区高島平8-24-1 徳丸ヶ原公園内
TEL:03-3932-0090
- 麻溝公園ふれあい動物広場
〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台2317-1
TEL:042-778-3900

ハーモニセンターのあゆみ

- 1961年 ハーモニサークル誕生
10数名の青年が集まって、東京・下目黒でボランティア・グループハーモニサークルを結成
千住、大森など都内各地で、子供会活動や養護施設訪問を実施
1971年までの10年間で参加した子どもの数は15000人を超える
- 1963年 子供会キャラバンを実施
「青年が変われば世界が変わる」を合言葉に、全国各地を巡回
1969年まで実施
- 1964年 ハーモニセンター発足
子供会に加え、働く若い仲間作り(YHS: Youth Harmonian Society)活動も実施
専従スタッフをおく
- 1966年 ハーモニセンター専従スタッフ、金子詔一が作詞作曲したキャンブソング「今日の日はさようなら」が誕生
(2007年に文化庁と日本PTA全国協議会が日本の歌百選に選定)
- 1967年 青少年育成国民会議に加盟
青少年育成団体として全国組織に仲間入り
- 1970年 チャーター機によるヨーロッパ40日間自己研修「FTE」(FLYING TO EUROPE)実施
往復だけは一緒の、ひとりぼっちのバラバラ旅行実施
73年までの4年間に704名が参加
- 1972年 第1回北海道とかちポニーキャンプ@実施
「親抜き、先生抜き、勉強抜き」の18泊19日
現在まで続くポニーキャンプ®のはじまり
- 1973年 日本で初めてのポニークラブ@開設
東京・町田市郊外にて、「広～い原っぱをポニーで駆けよう」を合言葉にスタート
- 1976年 財団法人ハーモニセンター誕生
文部省(青少年課)の許可
親子家庭ぐるみからの献金による草の根財団の誕生
- 1977年 蓼科ポニー牧場開設(長野県茅野市)
- 1980年 相馬ポニー牧場開設(福島県南相馬市)
- 1981年 目黒区碑文谷公園こども動物広場運営受託
- 1982年 葛飾区水元中央公園こども動物広場(ポニースクールかつしか)運営受託
ポニーキャンプ選抜チーム、天山山脈(中国)を馬で超える中国との国際交流スタート
- 1983年
- 1985年 相馬ポニー牧場で牧場生活体験留学スタート
相模原市麻溝公園ふれあい動物広場運営受託
- 1986年 内蒙古大草原日中少年少女合同キャラバンを実施
- 1988年 葛飾区上千葉砂原公園ふれあい動物広場運営受託(2009年まで)
- 1990年 ドイツ(シュタインフルト郡)との青少年相互交流開始
モンゴル国での大草原騎馬トレッキング開始
- 1993年 夏のポニーキャンプでハンディキャップ児童の受入開始
モンゴル・ウランバートルにユートピア日本語学校設立
- 1996年 ユートピア日本語学校がモンゴル文化教育大学(4年生)に昇格
- 2001年 小貝川ポニー牧場開設(茨城県取手市)
- 2002年 愛媛県今治市野間馬ハイランド調教・飼育管理支援
- 2005年 新潟県長岡市での小学校巡回ポニースクールスタート
- 2007年 横浜市こども自然公園万騎ヶ原ちびっこ動物園運営受託
- 2009年 板橋区立こども動物園 本園・分園・昆虫公園運営受託
- 2011年 葛飾区立上千葉砂原公園ふれあいどうぶつ広場運営再受託
海老名市動物ふれあい施設運営受託
東日本大震災被災地支援活動(東北支援活動)スタート
- 2012年 ポニースクールかつしかの軽乗チームがドイツに遠征、軽乗大会に出場
- 2013年 公益財団法人ハーモニセンターに移行
- 2014年 河川協力団体の指名を受け、河川騎馬パトロール隊発足
ポニーライダーズカップを蓼科にて開催
帯広畜産大学と共同で北海道プロジェクト開始
- 2021年 職員数70名 保有馬頭数90頭



ハーモニセンターのご案内

The Harmony Center

「思い出すだけで胸が熱くなる体験」を子供達に



公益財団法人ハーモニセンター

〒151-0052 渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
TEL:03-3469-7691 FAX:03-3469-7714
<https://harmonycenter.or.jp>



公益財団法人ハーモニセンター

<https://harmonycenter.or.jp>

ごあいさつ

時に「音楽の団体？」と質問される「ハーモニセンター」という名称は、前身であるハーモニサークル結成時(1961年)の時代背景に由来があります。非行少年の増加という当時の社会問題に心を痛めていた結成メンバーたちは、「少年非行の予防のためには、子供たちの周囲にハーモニ(調和)ある人間関係の輪を拡げていくことが必要だ」と考えました。その思いは「すべての人に対して、その尊さを信じよう。」に始まる「ハーモニ憲章」にまとめられ、現在も私たちの行動規範となっています。

ハーモニセンターのあゆみに刻まれている様々な活動は、その時々誰かがつぶやいた「こういうことをやってみたい」や、誰かの「こういうことをやったら喜んでもらえるんじゃないか」という思いを、「本当にできるかな？」と立ち止まることなく、「よし、やってみようじゃないか!」と、支援くださる多くの方々との出会いや知恵と汗を集めて一つひとつ実現してきた歴史です。

結成から60年たった今、欲しいもの、情報は格段に手に入りやすくなりました。一見豊かになったかのようにあるものの、それは必ずしも人々の幸せに結びついてはいないようです。かつては当たり前だった、「手に入らないから作る、工夫する」「知りたいことがあるから人に会

いに行く」「困っている人の手助けをする」など、実際に、具体的に、自ら行動する必然性と、生きる力を身に付けるために子供たちが体験すべき機会が極端に減少しています。更には、人を幸せにするために開発されたはずの技術や機械が、新たな形で、より深く他人を傷つけることさえあります。

初めてのことにぶつかってもオタオタせず飛び込める体力、気力。手助けを必要とする人に対するやさしい思いやり。自分勝手な言動を抑えられるブレーキ装置。自分たちのために力を貸してくれた周囲の人々の心の深さに気づくセンス。こうしたものは豊かな生活体験を繰り返し積むことで、はじめて自分のものになってゆく。そう信じて、共に楽しみ、共に生活する活動を続け、多くの成果を上げてきたと信じています。

しかし発信力の乏しさから、まだまだ、団体の存在は十分に知られておらず、その思いや活動が届く範囲は極々限られていることもまた自覚しています。今後は、現在進行中の活動を大事に守り育てると同時に、ハーモニセンターとして「困っている人がいるのに手付かずの課題」「需要があるのに提供できていないプログラム」に目を向け、既に取り組んでいる各地の団体、人々に学び、時には連携しながら、今の時代に応じた新たなハーモニある人間関係作りに励んでまいります。

ハーモニセンターのプログラム 色々あります

キャンプ



ポニーキャンプ・自然体験キャンプ

- 春・GW・夏・冬 ●ファミリー
- スキー・スケート ●ハケ岳など

子供時代にいかに自然体験をするかが、大人になってからの人間性に大きく影響しており、「社会性」「やる気」「思いやり」等、キャンプは様々な成長をもたらします。ポニーキャンプでは、馬に乗るだけでなく、給餌、馬小屋掃除、手入れ、鞍付けまでを子供達が異年齢の集団生活の中で協力して行います。学校以外の仲間やモノを言わない馬と気持ちを通わせる中で、いかに「自分さえ良ければいい」という考えに偏っているかに気づき、他の人の喜びを自分の喜びとすることができるようになります。

動物広場

都会のど真ん中、住宅に囲まれた公園で、ポニーに乗り、小動物と触れ合うことができる子供動物広場(区営、市営施設)を運営しています。ふらっと立ち寄って動物を見たり、触れ合う楽しみに加え、ポニー乗馬教室、動物飼育クラブなど、繰返し通い、自分とは違う学区から通ってくる異年齢のメンバーと体験活動を共有するプログラムも用意(登録制)し、地域に根差した活動を行っています。



—「思い出だけで胸が熱くなる体験」を子供達に—

大人になって振り返った時に「思い出だけで胸が熱くなる体験」を子供達に届けたい。「子供時代」に体にしみ込んだ経験は、将来、苦しい事に直面した時に踏ん張る土台となります。胸を熱くする体験は、安直な成功や与えられた楽しみの中ではなく、挫折からの立ち上がり様に見える景色、挑戦、失敗、工夫の中からつかんだ成果、辛いときに傍にいてくれた人がいたという記憶の中に存在します。生涯を通じて心の中を灯す光となる経験を、子供達に。

ハーモニセンターが子供達に贈る魅力の柱を以下に紹介します。



ポニー

社会教育を行う公益法人として内閣府に認定されたハーモニセンターの特徴として、約50年、ポニーをパートナーとして活動を続けてきたことが挙げられます。乗ることだけでなく、お世話も行うポニーとの関わりには子供達を育ててくれる様々な要素が含まれています。意思を持ち、接する人間の心の持ちようを察する能力を持つポニーには、本気で向き合わなければ相手にされません。同時に、自分自身とも向き合い、工夫する、協力する、勇気をもって挑戦する、他の命を思いやる、挫折する、達成感を得る、といった、その後の生き方に繋がる多くの大切な経験をすることになります。

カウンセラーと呼ばれる青年達

ポニーや、山や川などの大自然に、心も体も丸ごと飛び込み、好きなことに飽きるまで夢中になって取り組む子供達には「カウンセラー(青年ボランティアリーダー)」が寄り添い、挑戦する心を支えます。合言葉は「明るくタフで骨惜しみしない」。カウンセラーも、子供達と共に経験を重ね、成長していきます。



日独青少年相互交流計画

「ハーモニセンター」と「ノルトラインウエストファーレン州シュタインフルト郡青少年局」との民間レベルの交流が1990年に始まりました。両国の青少年がお互いの国を歩き来し、異文化を学び、国際的視野を育てることを目的とした交流事業で、現在、宮城県大崎市鳴子国際交流協会と連携、隔年の受け入れ・派遣を行っています。

モンゴル大草原騎馬トレッキング

乗馬を楽しみ、モンゴルの大自然と馬文化にふれる交流に、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加。乗馬力に応じて長い距離の徒歩に挑戦したり、牧民の方のゲルにお邪魔しての交流など日本では味わえない体験を提供します。一方、1993年に大草原の子供達のための「草原移動識字教室」を開始、同時にユートピア日本語学校を設立。現在、4年制の「モンゴル文化教育大学」に昇格。このようにモンゴル国への教育支援活動も行ってきました。



国際交流

移動乗馬教室



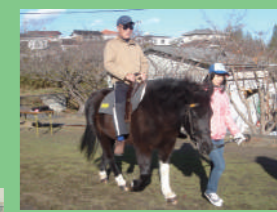
障害者乗馬



被災地支援



出張動物園



高齢者乗馬

など

Riding For All